

仰ぎ合う

大樹寺

貫主 中村 康雅 氏



教育随想



令和6年3月1日

3月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想……………	1
大樹寺 貫主 中村 康雅 氏	
この人に聞く……………	2
スポーツライター	
西尾 典文 氏	
羅針盤……………	2
六ツ美中学校	
校長 伊澤 勉	
ふれあい……………	3
宮崎小学校	
教諭 水谷 美沙	
特集……………	4
1年のあゆみ	
お知らせ……………	6
フォト・ヒストリー…	8
本を買うために(昭和50年)	
この本を……………	8

市内の学校から卒業式の歌を練習する声が聞こえる頃となりましたが、今ではかつて定番だった『仰げば尊し』を敬遠する学校も多いと聞きます。その理由の一つは、歌詞が古文調であること。例えば、代表的な歌詞である「今こそ別れめ(今まさに別れよう)」を「今こそ分かれ目(分岐点)」と勘違いをする生徒や、中には「我が師の恩」「和菓子の恩」と思い込む児童もあったと言います。

それでも、この曲名にある「仰ぐ」という気持ちは、大切にしなければなりません。今年、開宗八百五十年の節目に立つ仏教宗派・浄土宗では、教えを真に身につける入口として「智具(机上の学びによる入口)・

「行具(実践の学びによる入口)・「仰具(仰ぐべき人との出会いによる入口)」の三つが示され、「仰ぐ」ことがその一つに挙げられています。桶狭間の戦いにより命を絶とうとされた家康公は、時の大樹寺住職登譽上人との出会いによって今生に留まられ、戦乱の世に「厭離穢土欣求浄土」の旗印を掲げ、泰平の世に向けて日々邁進されました。これは窮地における出会いが、家康公の仰ぐ心を開く「仰具」となった良例です。

さて、そのような窮地無しに、い

かにして仰ぐ心を開くべきでしょうか。一人ひとりの教育者が日ごと仰がれるべき資質を育むことも大切ですが、そればかりではないように思います。教育者自らが率先して仰ぐ姿を示していくことこそ肝要です。後輩教育者が先輩を仰ぐばかりではなく、先輩も後輩を仰ぎ、教育者同士が仰ぎ合う。その姿が教え子の仰ぐ心を開かせることに繋がっていくと、浄土宗八百五十年の歴史を踏まえて感じる、今日この頃です。

(なかむら こうが)





本当にやりたいことで充実を

スポーツライター

西尾 典文氏

一八七二年にベースボールが日本に伝わって以来、いつの時代も野球は熱狂を生み出してきた。

西尾典文さんはプロ・アマ問わず野球を多角的に分析し、その奥深さをウェブサイトや雑誌で伝えている。—スポーツライターをめざしたきっかけを教えてください—

スポーツライターという職業に就くきっかけとなったのは、大学院在籍時の出来事でした。ある野球雑誌の編集社に、有名なアマチュア選手について、技術的な切り口から分析したレポートを送りました。そのレポートが編集長の目に留まり、野球の原稿を書くようになりました。

ただ、生活できるほどの収入はありません。大学院卒業時には大手新

聞社の採用試験も受けましたが、不合格でした。でも、大好きな野球に少しでも携わっていたいという思いや、自分の原稿が認められた経験から、どうしてもライター業を諦めることができませんでした。そこで、方針転換して、野球とは関係のないIT企業に就職し、副業でライター業を続けることにしました。

平日は会社員、休日はライターという生活を十五年続け、二〇二〇年に会社を退職して独立しました。その決断に迷いはありませんでした。会社員としての収入がなくなるとしても、ウェブサイトや雑誌に原稿が取り上げられることが増え、ライターとしての収入が安定していたからです。そして何より、四十歳を過ぎ、本当に自分のやりたいことに注力した方が、先々の幸せにつながる考えたからです。

—インターネット上で、自分の考えを掲載することのメリット・デメリットを教えてください—

メリットは紙媒体に比べてどれだけの方に読んでいただけたかということや、その反応が分かることです。どんな記事を書けば多くの方に読んでもらえるか、影響があるかなどを考えながら書くことができるのは、書き手にとっては大きなプラスです。デメリットは特に感じていません。

否定的な意見が挙がることをデメリットと感じる方もいますが、自分

はそうは思いません。百人が百人そろって納得するような内容の記事ではなく、多様な意見が出てくるものが記事として価値が高いと考えているからです。

—子供たちへのメッセージをお願いします—

学校で考える問題の多くは正解があるものですが、社会に出ると正解がないことも多くあります。だからこそ、学び続ける、行動し続ける、そして正解を探すのではなく、自分で正解を作ることが重要なのです。

また、私が野球に出会ったように、自分の好きなことを見つけ、それが仕事や人生の中心になると充実度が増します。そのために、様々なことを体験し、興味をもったことを深掘りして、新しい発見を楽しんでもらえたらと思います。

—今後の展望を教えてください—

現在の仕事は、自分にとってライフワークであり、求められる限り、体の動く限り、やり続けたいと思っています。自分の原稿が野球界の発展に少しでも影響を与え、野球を楽しむすべての方が、野球という競技の奥深さを味わってくれば、こんなにうれしいことはありません。



氏名

にしおのりふみ

出身校

矢作西小学校
矢作中学校



教育は人なり

六ツ美中学校

校長 伊澤 勉

心から尊敬してやまない先生がいる。お二人とも退職されているが、今なお私に影響を与え続けている。

A先生は、誰よりも早く学校に行く。そして、帰るのは決まって最後だ。休み時間も座ることはない。いつも子供を見守り、温かい声をかけられた。五十歳になっても審判ジャージに身を包み、運動場を駆け回っておられた姿が今も忘れられない。

B先生は、東日本大震災が起こった時、被災者を助けたいと、二十時間かけて東北の地に赴いた。困っている人がいると手を差し伸べずにはいられないのだ。そして、熱心に指導された水泳部の教え子が、看護師や介護士として社会のために活躍していることが何よりうれしいという。

二人の先生に共通しているのは、子供を信じ続ける大きな愛と教師と

みんなで学ぶ



宮崎小学校

教諭 水谷 美沙

「やったあ、できました。」

Aさんは、大きな声を上げて友達より先に問題が解けたことを喜んだ。Aさんは何事もできるようになりたいたいという気持ちが人一倍強く、問題を解くのが友達より遅くなったり、解決できなかつたりすると泣けてしまい、床にうつ伏せ、長い時間落ち込んで動けなくなることがあった。

何事にも一人で頑張り過ぎてしまうAさんには、友達と協力して粘り強く課題に取り組めるようになってほしいと願いをかけた。

生活科「おもちゃやさんをひらこう」の単元でおもちゃ作りに取り組んだ。モールを巻いて作ったへびを、穴を開けた紙コップの上に置き、画用紙で作った筒で息を吹き込むとへ

びが回る。しかし、Aさんが考えていたようにへびのおもちゃは動かなかった。Aさんは、止まったへびを見つめたまま、座っていた。私は、「掲示板を参考にしてみても」と、Aさんに提案してみた。掲示板には、課題を解決するためのヒントが、子供たちによって書かれている。Aさんは、「2cmだと、よく動く」というBさんのメモを見つけた。

「2cmってどういうことだろう。」

「どういことだろうね。Bさんに聞いてみたら。」

私は、Aさんが自分から人に尋ねられるようになってほしいと考え、声をかけた。Aさんは、「うん、2cmって何か聞いてくる」と言って、Bさんに話しかけに行った。

しばらくすると、「へびの長さのことで。一緒に2cmも測ってくれたよ。そうしたら、へびが本当によく回ったから、うれしかった」と、にやかな表情で話に来た。私は、「自分から友達に質問したり、教えてと聞きに行けたりしたことがすごいと思うよ。大人になってからも人に教えてもらったり、一緒にやってもらったりしているよ」と話した。

Aさんは、「うん」と言って、満面の笑みを浮かべた。

以前は、問題を解き終わると、「できました」とだけ言って、一人で満足しているAさんであった。しかし、今では、自分が分からないことを周りに質問するだけではなく、「困っている人はいませんか」「終わっているなら一緒に確認しよう」と言って、友達に声をかけ、みんなができるようにするためのたらきかけがある。これからの学習や生活で、困ったときには、一人で抱え込むのではなく、周りの人達と力を合わせて乗り越えていってほしい。



しての気概である。それは子供のためという想いで貫かれている。

また、二人の姿は日本中を感動させたWBCにおける侍ジャパンの栗山監督と重なる。栗山監督は就任にあたり、「誰よりも野球を愛して、選手を愛して、精一杯務めさせていただきます」と語った。選手の特性を見極め、最強チームを作り上げた。最後まで選手を信じ続ける姿が、二人の先生と重なるのだ。勝つためには優れた戦術や選手の活躍が必要である。しかし、大きな愛に支えられた強い絆こそ、侍ジャパンの最大の勝因であったと私は思っている。

教師人生の締めくくりにあたり、私の想いを伝えたい。教育もスポーツも小手先の策は通用しない。まずは、真正面から子供と向かい合うこと。そして、「私はあなたが好きなんだ」と想いを伝えてほしい。子供たちはそんな教員を待っている。また、尊敬する二人の先生や栗山監督のように、最後まで子供を信じることを忘れないでほしい。そうすれば、子供は安心して本来の力(個性)を発揮できると私は信じている。野球も教育も最後は人である。飾ることなくあなたの大きな愛で子供たちを導いてもらいたい。

1年のあゆみ



▲第90回NHK全国学校音楽コンクール 全国コンクール 銅賞 六名小



▲全国中学校体育大会 陸上競技男子 110mH 6位 翔南中



▲交通安全子ども自転車愛知県大会 団体の部 優勝 竜美丘小

Table with 10 columns containing student names, school names, and competition results. Includes categories like '陸上競技男子' and '水泳競技男子'.



▲第69回読書感想文愛知県コンクール 愛知県知事賞 竜南中



▲第72回愛知県中学校駅伝大会 女子の部 2位 矢作北中



▲フラワー・プラボー・コンクール 学校花壇コンクール 愛知県大賞 形埜小

Main table containing award details for various categories including reading contests, sports events, and flower/prop contests. It lists winners, their schools, and the specific awards they received.



●ハートピアの取組

一 利用状況

	依頼	見学	体験	正式	復帰
小学1年生	1				
小学2年生					
小学3年生	3	2	1		
小学4年生	8	7	5	1	
小学5年生	10	9	7	3	
小学6年生	15	13	8	4	1
中学1年生	11	9	7	5	1
中学2年生	14	12	10	5	2
中学3年生	9	8	5	4	
合計(人)	71	60	43	22	4

今年度一月末時点でのハートピアの利用状況は右表のとおりである。近年は、中学校にF組が設置されたこともあり、中学生の依頼が減少し、小学生の依頼が増加傾向にある。特に、低・中学年の依頼が増えてきている。

二 学校と連携した取組

ハートピアでは、学校と連携しながら、通所生の社会的自立を目指して支援している。子供の姿が大きく変容した例を紹介する。

(1) 中学二年A男の状況
一年生の九月から通所。当初は、保護者ともども学校に対する否定的な感情が強く、学校になかなか足が向かない状況だった。二年生になり、学校はできる限りの配慮をしたが、登校することはなく、本人に会うことさえできない日が続いていた。

(2) 支援内容
① 中学校との関係を作ることができるよう、六月、ハートピア通所時に面談の場を設けることを計画した。
② 母親と十分話をし、支援内容への理解を得た。
③ 校長先生の協力をもらい、校長面談から担任面談へと段階を経て、A男との面談の場を設けた。

④ 本所で、定期的な担任が本人と会う機会を設けた。

(3) 状況の変化

① 六月末。今年度、初めて担任との顔合わせができた。
② 十一月。担任の誘いで一年四ヶ月ぶりに登校し、文化祭の合唱を参観した。
③ 十二月。スキー学習の参加に関して前向きな言葉が聞かれるようになり、準備のために登校した。

④ 一月。二泊三日のスキー学習に参加できた。
⑤ 二月。F組への通級手続きを進めている。

ハートピアは、生活のリズムを作りやすく、静かに、落ち着いた生活ができる場である。個々の子供の状態に合った支援をすることが可能である。不安や悩みを抱えている子供、学校そのものに抵抗を感じている子供には、ぜひ選択肢の一つとして考えてもらえるとよい。

●読書感想文・読書感想画コンクール表彰式

令和六年一月二十六日(金)

岡崎市総合学習センターにて第五十九回岡崎市小中学校読

書感想文・読書感想画コンクール表彰式が行われた。

市長賞三名と市議会議長賞三名、岡崎南ライオンズクラブ会長賞三名と岡崎市教育委員会賞一名が参加し、表彰された。表彰式後には、代表者の読書感想文と読書感想画が披露された。

入賞者は以下のとおり。

○読書感想文

市長賞

広幡小 佐野陽南汰

附属小 木村 仁勇

竜南中 加藤 留如

市議会議長賞

城南小 子川あいな

上地小 都築 京香

矢作北中 石垣 心菜

岡崎市教育委員会賞

男川小 杉浦 壮汰

緑丘小 永田 葵

六名小 蒲原 隼

竜美丘小 竹下 稜人

連尺小 尾前 徹朗

井田小 朱 琳那

竜谷小 安藤 直樹

矢作南小 伴 悠汰

六ツ美北小 後藤 凌空

附属小 木村 日南

甲山中 天野輔之丞

葵中 渡邊優志朗

城北中 長谷 祐真

附属中 杉浦 蒼可

○読書感想画

南ライオンズクラブ会長賞

井田小 三浦 遥人

小豆坂小 柴田 環奈

竜南中 尾崎 明莉

岡崎市教育委員会賞

根石小 宇佐美瑚乃

連尺小 寺本 芽生

連尺小 市川 寛郎

福岡小 中根 悠晴

大樹寺小 松尾 滯

上地小 岩瀬めい子

小豆坂小 大鋸菜々実

六ツ美北中 重松なずな



●表彰

◆第23回全国中学生創造ものづくり教育フェア

創造アイデアロボットコンテスト全国中学生大会

○計測・制御部門

審査員特別賞

福岡中

鈴木 海斗

中根 一詠

梅村 明煌

○応用・発展部門

優秀賞

葵中

石川 結大

渡邊優志朗

鈴木 聖歩

◆天皇盃 第29回全国都道府県対抗男子駅伝競走大会

○中学生区間(男子)

2区出場

矢作北中

稲垣 諒也

補欠

北中

秋田 順哉

◆皇后盃 第42回全国都道府県対抗女子駅伝競走大会

○中学生区間(女子)

補欠

新香山中

本田 結彩

◆JFA 第29回全日本U-15フットサル選手権大会

2位

六ツ美中

坂部 大翼

◆2023年度「はがきでコミュニケーション」全国発表大会

○低学年の部(Cブロック)

優秀賞

小豆坂小

吉見 柰里

優秀賞

小豆坂小

久野 湊斗

◆第31回 少年少女書道大会

○小学校二・三年紙の部

最優秀賞・東海ラジオ放送賞

竜谷小

林 千歳

◆2023年度 愛知県アンサンブルコンテスト県大会

○木管八重奏

金賞

柴田風羽香・河内 優菜

村松さつき・堀江 咲愛

田中 洸有・北川愛莉紗

田村 翠咲・森 怜奈

金賞

田畑菜佳佳・山田 愛莉

伴 菜々子・梅村 空菜

三井 花・中根 純菜

横山 葵・深谷 琉翔

銀賞

柘植 陽里・佐藤 悠月

岩田 光功・鈴木 康真

葛葉 奈桜・桑村 優花

成川 愛花・山中優莉奈

○金管八重奏

銀賞

山本 奏来・池末 有那

太田みのり・松橋 美月

中根 美那・木戸 颯彩

太田 陽渚・鈴木 那奈

○フルート四重奏

金賞

橋爪 滯・白石 麻衣

眞鍋 実来・飯田 真優

○サクソフォン三重奏

金賞

原 優奈

吉尾 芽菜

原 優奈

新香山中

優良賞

加藤 留如

竜南中

男川小

緑丘小

六名小

竜美丘小

連尺小

廣幡小

竜谷小

六ツ美北部小

城南小

上地小

矢作中

有那

美月

颯彩

那奈

竜海中

麻衣

眞優

優奈

華

華

華

華

華

華

華

華

華

華

華

華

華

華

華

華

華

華

華

華

華

華

甲山中

天野輔之丞

葵中

渡邊優志朗

城北中

長谷 祐真

矢作北中

石垣 心菜

優秀賞(全国へ)

連尺小

市川 寛郎

小豆坂小

柴田 環奈

根石小

伊豫田武蒨

竜南中

尾崎 明莉

大樹寺小

松尾 滯

竜谷小

小林 柚葉

六ツ美北部小

下村 美遙

井田小

三浦 規楯

井田小

寺島 咲希

愛宕小

別府 遥人

大樹寺小

松尾 滯

天野輔之丞

渡邊優志朗

長谷 祐真

石垣 心菜

市川 寛郎

柴田 環奈

伊豫田武蒨

尾崎 明莉

三浦 規楯

寺島 咲希

別府 遥人

松尾 滯

小林 柚葉

下村 美遙

三浦 規楯

寺島 咲希

別府 遥人

松尾 滯

小林 柚葉

下村 美遙

三浦 規楯

寺島 咲希

別府 遥人

松尾 滯

小林 柚葉

下村 美遙

三浦 規楯

寺島 咲希

別府 遥人

松尾 滯

小林 柚葉



教職員の相談窓口

【対象】全教職員 【相談内容】・勤務のこと・家庭のこと・心や体のこと 等

番号	相談窓口	電話番号	相談受付日時
1	岡崎市教職員相談ダイヤル	0564-64-3322	火曜日～金曜日 12:00～19:00 土曜日 12:00～16:30
2	岡崎市こころのホットライン	0564-64-7830	月曜日～金曜日 13:00～20:00
3	愛知県総合教育センター教育相談	0561-38-2217	月曜日～金曜日 9:00～16:00
4	あいこころのホットライン 365	052-951-2881	年中無休 9:00～16:30
5	名古屋いのちの電話	052-931-4343	年中無休 24時間

・カ
ツ
ト

矢
作
中

天
川
奈
津
子

本を買うために (昭和50年)

写真提供：恵田小学校



毎年六月になると、世話をしてきた校
内の梅の実が枝もたわわに実る。子供た
ちはその枝を揺らして、落ちてきたたく
さんの実を競い合うように集めた。

昭和二十二年、地域の方々によって、
恵田小学校に梅の木が植えられた。毎年
百キロ近くの梅の実を販売して、本を買
う資金にし、「梅の実文庫」をつくった。
三十年後、「梅の実文庫」の新聞記事を読
まれた斎藤さんが、毎年本を寄贈くださ
るようになり、「斎藤文庫」へつながった。
岡崎の子供たちは、地域の方の愛情に
包まれ、健やかに成長していく。地域と
共に教育環境を整える取組は、形を変え
ながらも大切にされている。



*「できない」を「できる」に変える 大谷翔平の思考法
児玉 光雄
アスコム ￥1,270

心に残った一文
何も変わらないより、何かを変えていった
ほうがいい。

子供に夢を与える日本の全小学校への
グローブの寄贈。メジャーリーグ史上初
となる2回目のMVP満票受賞。プロス
ポーツ史上最高額の契約。大谷翔平選手
の成し遂げた偉業は、驚異的である。

本書は、大谷選手の思考パターンを読
み解き、「自分史上最高の自分」にめぐり
逢うための「ポジティブ思考」の神髄に
触れている。抱いた夢を実現させる方策
が詰まっている。教育現場においても、
子供の「できない」を「できる」に変え
た瞬間は、至福のひとつときである。

ユニフォームを赤から青に変え、心機
一転した大谷選手のように、気持ち新た
に挑戦し続け、子供の成長に尽力したい。

*一流ファシリテーターの空気を変えるすごいひと言
中島 崇学
ダイヤモンド社 ￥1,500
*はじめる習慣 小林 弘幸
日経BP 日本経済新聞出版 ￥800
*発明と発見 その衝撃に立ち会う本 小澤源太郎
青春出版社 ￥880
常磐小学校 富田 好己

ホームランの数や球速など、選手の競技能力に
着目した情報だけではなく、野球界をより良くす
るため、西尾さんは様々な記事を書かれている。
「野球を楽しむすべての人が、その奥深さを味わ
うこと」の達成にこだわり、西尾さんは力を注ぐ。
「僕は野球に育ててもらった」と語
るスポーツライターの恩返しは続く。

突然中止になった卒業式での合唱。
歌えなかった先輩の思いも入った、大
きな歌声が体育館に響き渡る。マスクの有無に関わ
らず、思いの大きさは伝わる。やはり合唱はいい。
三年生は歌を通して、「この学校を頼む」と、後
輩に思いを託す。桜のつぼみの膨らみに合わせる
ように、一、二年生の決意も膨らみ始めた。

ホ と

弥 生



▲卒業生を送る会(六ツ美中)

つま先立ちになって手を伸ばし、窓や棚の上を
拭く子供。年度末になり、きれいにしたいという
気持ちが高まるのだろう。次に教室を使う後輩の
ため、一年の感謝を込めて掃除をする。
今年度もあと一か月となった。級友への感謝と、
来年度への期待を膨らませ、子供は一
日一日を大切に過ごしていく。